

○川村直人文化生涯学習課長 嘉永堰と昭和堰の調査結果につきましてですが、文化生涯学習課のほうで昨年10月に5名で現地調査に行っております。

次に、市史への掲載についてでございますけれども、近世並びに近代のほうで嘉永堰と昭和堰についての具体的な執筆内容を検討してございまして、ボリューム等については市史の編さん委員、編集委員の方々にお任せをしておりますので、ご理解をお願いしたいと存じます。

○渋谷佐輔議長 5番、平 進介議員。

○5番 平 進介議員 それぞれに答弁いただきまして、ありがとうございます。いつものことながら、こういった格好になっておまして、これで私も十分というつもりではないんですが、それぞれに答弁いただいた中で、まず消火栓については関係機関、いろいろ協議していただいて、これから老朽管の更新作業があるわけですから、できれば集落のところを少し見ていただいて、直せるところは75ミリにさせていただくような、そういうふうな動きでやっていただければというふうに思います。

あと、防犯灯については年次計画で進めていただけるということで、大変ありがたいというふうに思っております。ぜひ犯罪のないまちづくりを目指して、私どもも一緒になって頑張っていきたいというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

あと、嘉永堰と昭和堰の件であります。これについてはやはり山の奥のほうですから、その管理するというのもなかなか大変なところがあるというふうに思っております。かんかねのところについては、あそこで通行どめのところもあるもので、その辺もどうするかということもありますし、商工観光課長、来春登っていただいて、その課題の洗い出しをしていただけないかということで、大変ありがたいというふうに思っております。

それから、市長、最後にありました地域おこし協力隊の方、来年度あたり来ていただけるというふうな、その見込みのようですので、ぜひ地元と一緒に山に登っていただいて、見ていただければというふうに思います。

以上です。終わります。ありがとうございます。

## 今泉春江議員の質問

○渋谷佐輔議長 次に、順位9番、議席番号8番、今泉春江議員。

○8番 今泉春江議員 日本共産党の今泉春江でございます。きょう12月8日は、76年前、太平洋戦争が始まった日です。二度と戦争を起こさないように、決意を新たにすべき日と申し上げ、質問に入らせていただきます。

それでは、内谷市長に大きく3つの質問をいたします。そして一部、農林課長にも質問をいたします。明確な答弁をお願いいたします。

1番目です。レインボープランの今後の方向性についてお伺いいたします。

レインボープランは、今年度20周年を迎えて、地域循環型農業として台所と農業を結ぶかけ橋の役割を果たしてきました。この間、全国の市町村、さらには外国からも多くの方々が視察研修に来ており、最近では大正大学の方々が研修に訪れており、多くの方々から注目されてきました。レインボープランは長井市のまちづくりの基本理念であると市長もカタログにメッセージを寄せております。

私は市民として生ごみを提供し、それがまた土に戻るという循環システムは当たり前であり、また大切なことであり、今後も継続が必要ではないかと強く考えます。しかし、20年が経過して、さまざまな課題や問題も見えてきました。

これを考えて解決していかななくてはならないときが来ているのではないかと思います。

そこで、これまでの20年間のレインボープランの事業をどのように検証なされているか、今後もこの事業をどうなさるのか、お考えをまず市長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。今泉議員からレインボープランの今後の方向性についてということで、これまで20年間のレインボープランの事業をどのように検証し、また今後、事業をどうするかというご質問でございます。

まず、2つの視点からお話をさせていただきたいと思います。まずはまちづくりという視点からでございますが、まちづくりの理念の一つとして、議員からもありましたように、地域内循環、安全・安心、環境という取り組みは、過去においてもこれからも、一貫して目指していくものというふうに考えております。したがって、レインボープラン事業についてはこれまで同様に、さらに新たな流れもございますので、そういったことも含めて継続していかねばならないという考えでございます。

ただし十年一昔、あるいは一世代というように、議員おっしゃるように、事業開始から20年でございますので、二昔たつてるということから、ほかの、本当に先駆的な取り組みだったんですが、ほかの市町村ではレインボープランを学び、次の展開を図っている地域もございますので、いいところは残しつつ、これから時代の要請に合わせたレインボープランの進化というものも必要なものだと思っております。ただし理念は循環でございますので、これは私ども、これからはずっと守っていくべきものと思っております。

20年以上前に、非常に当時の若い人たち、働き盛りの人たちが議論し合いながら、こういったレインボープランというものをみんなでつく

ったわけでございますが、特に生ごみ収集の努力をなさいました中央地区を中心とした市民の皆様、とりわけ消費生活者の会の皆さんが大きい力になっていただいたと思っておりますが、世代交代もしておりますし、家庭内ではお母さん方も随分、当時の主婦がやっぱり一線を引いて、お嫁さんとかに任せるといふ世帯もふえておりまして、人口減少ということもあり、生ごみの収集量が減ってきていることも事実でございます。

このような状況ではございますが、レインボープラン推進協議会では子供たちに土曜らんどなどを通して、その親の世代とともにレインボープランを学んでもらうため活動を行っていたり、市内スーパーマーケットでの普及活動を女性委員や高校の家庭部生徒などによって行うなど、市民向けの広報活動を精力的に行っていたいております。

また、長井市花いっぱいの街づくり事業では、花の苗とともにコンポストの配布も行っておりまして、花の景観づくりにもレインボープランが役立っております。このような取り組みによって認証作物の生産農家の励みになっておりまして、興味を示す市民が少しでもふえることを期待しているところでございます。

20年目を、20年を節目に推進協議会も今後の展開を検討しているようでございまして、組織体制であったり、事業の整理、あるいは新たな事業も模索しているというふうな状況でございます。市でも生ごみの量は減っても循環の理念のもと、環境に優しく安全で安心な、健康な魅力あるまちづくりは変わりございませんので、今後ともレインボープラン推進協議会の皆様とともに事業を継続していきたいと考えております。

ちょっと長くなって恐縮でございますが、もう一方の農業サイドからのお話でございますが、繰り返しになりますが、レインボープランは平

成9年3月に消費者、生産者等を中心として設立されたレインボープラン推進協議会、当時の企画調整課、現在は地域づくり推進課でございます、で生ごみ収集を行う、担当する市民課、コンポストセンターの管理運営を担う農林課で推進してきたところですが。農林課で担当する部分はコンポストセンターでの生ごみの堆肥化であり、平成28年度の年間投入量は、生ごみ520.4トン、畜ふんが373.6トン、もみ殻174.7トン、堆肥の出荷量は316.5トンでございます。取り組みの成果としては、生ごみが堆肥となり、田畑に還元されていることに加えて、コンポストセンター稼働前の平成8年度と稼働後の平成9年度を比較しますと、生活系可燃ごみが約3割減少していることから、市民の環境保全に対する意識の醸成につながったと思われまます。環境保全型農業への一つの流れをつくったとも自負しているというふうに思います。

市内ではレインボープラン農産物を使った飲食店メニューや菓子、大豆製品、漬物といった加工品の提供など、異業種間の連携も進みました。また、国内外から、議員からもありましたように、視察者が多数訪れておりまして、事業開始から現在まで3万4,000人以上、40カ国を超える国々から視察や調査研究を受け入れたところです。市内小・中学校においては環境教育、食育教育の題材として子供たちの健やかな心身と郷土への誇りを持てる、育てる一翼を担っているものと考えております。県内外の大学や団体においては滞在型フィールドワークの研究テーマとしてレインボープランが取り上げられておりまして、市民との交流も盛んに行われています。

レインボープランでは、ことしで21年目を迎えるということでございますが、時間の経過や社会情勢の変化により課題も発生してきてます。まずはコンポストセンターの老朽化、次に、生ごみ回収量の減少、農産物の生産面ではレイン

ボープラン認証農家の減少などがございます。当面する対策といたしましては、コンポストセンターは機械施設の更新や修繕で対応してまいりたいと思っております。生ごみ回収量の減少ではパック詰め食品の普及など食生活の変化もあり、難しい部分もありますが、広報等で事業に対する特に若者等への理解を深めていく必要があると感じております。認証農家については全体の農家数が減少していく中での取り組みになりますので、新たな担い手の発掘はもちろんでございますが、1人当たりの面積をふやしていただくなどの対応をお願いしてまいりたいと考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 市長からは、まちづくりの理念を残すと、私も大変重要なことだと思っております。ぜひそういう方向で進めていきたいと思っております。農業関係や、それから可燃ごみが30%減ってるとかいう、そういう結果も踏まえれば、やっぱりレインボープランという私たちが生ごみを出してるという大きな意味もそこにあるのではないかなと感じております。

今ちょっと市長からもご答弁いただいたんですけども、次の質問にも関係しますけども、質問として準備しておりますので読ませていただきます。

コンポストセンター施設の老朽化というのは大変深刻です。見学に行きましたら、設備が老朽化しておるため大変ご苦労なさっている様子でした。過日の市民と議会の意見交換会で近くの方々から、最近においが特にひどいと、それから建設するときにはにおいはしないからとの説明だったと、何とかしてほしいと、下水道の工事もあるんでないかというようなこちらの答弁もしたところでしたけども、何とかしてほしいという要望がありました。私は今、市長からご答弁いただいたように、近いうちにこの施設の更新や改修が必要になるのではないかと感じ

ます。このにおいと施設の老朽化についての対策ということで今、ご答弁いただきましたけども、改めてご答弁、この質問の中で計画はありますかということでご答弁をまずいただきたいと思います。

いろいろな関係者からお話をお聞きしますと、こういう施設ですけども、最近ではコンパクトで機能も向上していて安価な機械設備があると聞きしております。やはり事業継続のためにはこういうこともご検討いただいて、更新ということを考えていただきたいなと思えます。市長、もう一度ご答弁をお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。少し先走りして答えてしまいました。申しわけありません。施設の更新改修が必要ではないかと、またコンパクトで機能が高い安価な機械設備が最近いっぱい出てるんじゃないかと、そういったものの検討をしてはどうかというご提言でございます。

議員おっしゃるように、繰り返しになりますけども、21年目の稼働になるわけでございますけれども、全体的に老朽化が非常に進んでおりまして、今から7年ぐらい前ですか、当時、農林課のほうにちょっと協議をして、今後新たにつくる場合、どのぐらいの経費がかかるんだということと、あと私を感じておりましたのは、全国に先駆けた施設だったんですね、21年前は。これはウルグアイ・ラウンドのさまざまな交付金ということで、恐らく当時でいえば半分以上の支援を受けてつくった建物だと思うんですが、類似施設がないもんですから独自のシステムをつくっているんですね。

その当時は先駆的だったんですが、私もいろんなところをたまたまですけど、見ました。3カ所ぐらい見たかな。レインボープランどうのこうのを見たんじゃないですけども、そうして見たところ、非常にほかのところはシンプルなんですね。シンプルな、いわゆるコンポストセ

ンターのなところが多かったと。ところが、長井のコンポストセンターは最初なもんですから、どういう経緯があったかわからないです。長井で独自につくってもらったんですね、コンサルと施工会社に。これ多分、長井独自のシステムみたいなのはもちろんないんで、これをどうするかですが、新たなシステムをつくらいいんじゃないかということで、いろいろ検討したんですが、数十億かかると。もう1回全部作り直さなきゃいけませんので、議員おっしゃってるコンパクトなところだけ直すっていうのは、基礎のコンクリートも全部変えないと、ちょっと難しいようです。

ほかのところをごらんになったかどうかですが、長井のコンポストセンターみたいなところはなかなかもう今はないんですね。新しいところは本当シンプルなんです。ですから、そのところも含めて、以前は地元の製造業でそういうシステムをつくれなにかとか、いろいろ検討したんですが、かなりちょっと難しい課題もあるということでした。

したがって、まずは27年度に原料搬送のコンベヤーとか、この交換工事、シャッター改修工事を初めとして、さまざまな粉骨粉碎室ですか、ダストファンの取りかえ、二次発酵槽の吸気ファンの修繕、火災報知機修繕、昨年是一次発酵槽の改修工事等々で、ことしは堆肥化原料搬送コンベヤーの改修等々、ちょっとやるだけで500万円とか、あと数千万円かかるものもありまして、ちょっとこの辺のところをどうするかっていうのは、本来であれば10年前ぐらいにこういった設備ですから大規模改修してればよかったのかなというふうに思っておりますが、なかなか難しいところもあると思えます。

細かい部分も申し上げますと、大分また長くなりますので、どうしましょうか、この辺、細かく申し上げたほうがいいですか。よろしいですか、はい、済みません。

したがいまして、改修が必要なことはごもっともです。あと、コンパクトで機能が低い安価な機械というのは出ておるのも事実でございまして、それを使う場合どうだと聞いたら、これは基礎から直さないとだめなので、担当課のほうではこれは難しいということでした。

あと、においでございますが、今泉議員もコンポストセンターへ行かれたことはしょっちゅうあると思います。時期によっても、夏ちょっと臭いということも感じることもあるんですが、私もしょっちゅうではないですが、時々参ります。感じますのは、ほとんどにおわないというふうに思っています。においはいろいろな原因がありまして、ここでは、議場ではなかなか言えないところもあるんですが、やっぱり周りの施設もちょっと関係してると。地元の方々も、地元であえて言えないことなどもあって、その辺何か議員におっしゃったんじゃないかなというふうに思いますが、前にはEM菌を使ったらどうだというふうなことをレインボーの人たちにも提案したことがあるんですが、それは地元の菌じゃないからだめだと。これは、レインボーは、もともと地元にある菌で発酵させて堆肥にするんだから、外から菌を持ってきたらレインボーじゃないと、こういう考えで、したがいまして、やっぱり活性炭の吸収のそういう装置なんかでにおいはある程度排気したものを外に出すしかないということでした。その辺のところは今後とも努力をしてまいりたいというふうに思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** やはり更新というのは、今まで修理、修理で来ました。修理も結構施設そのものが設備が大きいものですから、お金もね、今、市長のおっしゃるように、すごく500万円とかね、何かそんなふうな記憶ではかかってますね。ですから、いずれ更新しなくちゃならない時期が来るのではないかなと。ですから、

例えばあと10年もつかどうか、ちょっとそこもわかりませんが、やはり5年計画とか10年計画とかで新しいものに更新していただけると、そのやはりレインボー協議会の中では、本当に安価なものが栃木県あたりであると。実際のどのくらいかかるのか、そういうものは補助金などが出るのかなんていうことも行政というか、市とも相談しながら更新に向けて計画を立てていただきたいなと思うところです。よろしくお願いいたします。

それでは、また次に行きます。3番目です、市民とのかかわりをさらに強くする施策についてご提言をします。

私も含めて、ほとんどの市民は生ごみを出すだけで終わってしまいます。レインボー認証野菜を購入したときにシールなどを見て、何となくこれがレインボープランでできた野菜かなと、地場産の野菜かなというふうに感じますが、ただ、そんな感じで、あとは何も感じることなく過ごしてしまいます。

そこで、レインボープランと生ごみを提供してくれる市民をつなぐために、1キロぐらいの本当に小さなものでもいいので、市民にレインボーコンポストでつくられた堆肥、土壌改良剤というんでしょうか、それをプレゼントしてはどうでしょうか。希望者だけでいいかと思えますけども、家庭菜園はもちろん、プランターなど花などにも使えるのではないのでしょうか。そうすればさらに市民が自分の出した生ごみがこのような堆肥になって帰ってきたと目で見ることができると思えます。いかがでしょうか、ここは農林課長にお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤敏広農林課長。

○**遠藤敏広農林課長** お答えいたします。

レインボーコンポストは有価物としてコンポストセンターでは、はかり売りで1トン当たり2,625円、税込みでございます。JAのグリーンセンターでは10キログラム入り、税込み1袋

241円で販売しているところでございます。コンポストの一部は小・中学校の栽培学習と食育教育推進のための学習材料として、また平成26年度から始まりました長井市花いっぱいの街づくり推進事業へ参加されております公民館等への団体に対して、花壇づくりなどのために無償提供いたしておるところでございます。

近年、核家族化や中食、コンビニやスーパー等のパック詰めや持ち帰り料理を買って食べることでございますが、これらへの依存など、食生活の変化に伴いまして調理による残渣が減っていること、また生ごみを集積所まで運ぶことができないというお年寄り世帯も多くなっておりまして、堆肥の貴重な原料となる生ごみが減っていることが課題となっておるところでございます。

消費者の皆様には生ごみを分別され、提供いただき、認証野菜の購入にも参加いただいておりますが、堆肥の小袋のプレゼントや栽培いただいた野菜、花の展示会をするなど、レインボープラン推進協議会の皆さんとも連携をしながら、みずからが参加して育てるレインボープランへの取り組みなども検討させていただきたいというふうに思っておるところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** やっぱり生ごみが減っているということで、今、課長のほうから高齢者でその生ごみを出せなくなっているというような、さまざまな課題もありますけども、レインボー協議会では今ご答弁いただいたように、さまざまところで小学校とか公民館の花というんでしょうか、そういうものにも提供していただけてるということはわかっておりました。ですけども、一般の家庭の方にといいことで、希望者で小さな袋を、本当に小袋でもいいですから、見ていただくということも必要かなと。なお検討いただければと思います。

次です。また今とちょっと関係もいたしますけども、市民にレインボープラン協議会の事業を知ってもらうために協議会の会員や賛助会員になっていただき、さらに大きくこの循環を広げてはどうでしょうか。会員や賛助会員には定期的にイベントや生産者の情報をメールや手紙で発信して、会費は誰でも入れるように年1,000円ぐらいにして、そのPRのための経費に使ってはいかがでしょうか。また、会員にはイベントなどでの割り引きや、また優待券などを発行してはいかがでしょうか。レインボープランの輪がさらに大きく広がると思います。学校にも提供してるとおっしゃいましたけども、子供たちにも家庭からレインボープランが広がっていくのではないのでしょうか。いかがでしょうか、これも農林課長にお尋ねします。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤敏広農林課長。

○**遠藤敏広農林課長** お答えいたします。

レインボープランでございますが、平成9年の運用開始以来、これまで国内外から延べ3万人を超える方々が視察に来られまして、長井でレインボープランを学んでいかれました。福岡県の大木町や栃木県高根沢町などで液肥や堆肥化など循環型の取り組みをされ、海外ではタイの村でも独自のレインボープランが始まるなど、循環の輪はますます広がっておるところでございます。

また、明治大学の共生社会論研究室、あと日本カトリック総長会のシスターの皆さん、大正大学の人間学部の学生さんなど、長井をフィールドワークの場として毎年訪問くださっておりまして、今後のレインボープランについても助言や提言をいただいておりますというふうにお聞きしているところでございます。さらに長井市と交流しております東京の大田区では、農業委員の皆さんが遊休地で栽培した認証里芋での芋煮会を行って、多くの区民の方々に試食していただくなど、市外からの応援の声も届いておると

ころでございます。

このように、既にNPOレインボープラン市民農場でも市外からの会員の参加をいただいておりますが、今後も循環のまちづくりにいろいろ関心をお寄せいただいて、より広い循環の輪をつくっていくように協議会のほうと検討を進めてまいりたいというふうを考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 今ご答弁いただきましたけども、一般の市民の方にレインボープラン協議会のいろんな情報をメールや手紙や何かで発信していただきたいという、そういう会員を募ってはどうかという質問なんですけども、ぜひそういうこともご検討いただければなど。そうすればさらにPRも進むんでないかなと、循環の輪が広がるのではないかなという質問でしたけれども、課長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤敏広農林課長。

○**遠藤敏広農林課長** 具体的な項目につきまして、レインボープラン推進協議会の皆さんと検討させていただいて対応してまいりたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** ぜひよろしく願いいたします。

この項目最後になります。レインボープラン推進協議会は、長井市の補助金での運営ではなく委託事業として運営してはどうかということです。

20年の間、協議会は長井市の補助金で運営してきました。大変言いにくいことですが、市民の中には補助金ということで、補助金に頼っている、いつまでも自立できないというような批判もあります。レインボープランは長井市と協働、力を合わせ一緒にやっていくことで取り組んできていると会長さんも話されておりました。

た。市長もレインボープランは長井市のまちづくりの基本理念と言っております。そうであれば長井市にとって重要な事業であり、委託事業もしくは指定管理のような事業として行うべきではないでしょうか。補助金から転換すべきと思いますが、いかがでしょうか。まず、市長にお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 議員のほうからは補助金ではなく委託料ということでございますが、補助金のほうが従来の協働という意味では私は合っているというふうに思っています。委託料というふうになりますと、市のほうのこの部分をご委託いたしますという業者さんとの契約みたいになるんですね。したがって、そこにはその受ける団体の意思ってないんですよ。我々、長井市でこういったことの業務を委託したいと、それを受けるのが委託料でありますので、したがって、今泉議員がおっしゃる中身でいったらむしろ補助金のほうがいいんじゃないだろうかと思っております。

補助金の、協議会の設立以来、補助金というお話でしたけれども、若干の運営費補助というのは行ってきたんですけれども、今のようになつたのは9年ほど前で、平成20年からだと思っております。これは私どもがちょうどその行革の中で人を出さなきゃいけないということで、レインボーの担当も1.5人ぐらいいいたんですが、やっぱりちょっと減らさざるを得ないといったときに、むしろレインボー側のほうも事務局体制をきちっとしたいということで、補助金ということも考えてほしいということで協議した結果、私どもといろいろ意見交換して、じゃあこういった事業に対してこのぐらいの補助をいたしますと。それは人件費とか、例えば事務所の借上料とか、いろんな事業の支援とか、そういったことを含めて現在の補助金制度でずっとしてるところなんです。

一部行革でシーリングかけてマイナス10%なんていうときもあったんですが、その部分は回復させていただいて行っておりますので、レインボープラン協議会さんのほうから、いや、委託料にしてほしいということであれば協議いたしますけども、私どもはむしろ補助金で、やっぱり我々がやることは行政でやって、レインボー協議会で計画してる、あるいはいろいろ事業を推進していることはやって、お互いに協力体制でやっていくと。新たな事業をなさりたいときは、やっぱり補助金の割り増しっていうのはあるわけですね。ただ、委託料と補助金っていいましたら、これは委託料では協働ではないと。あくまでも発注者と受注者と、委託を受注、発注ということになるんですね。ですから、そのほうがよろしいのではないかなと思います。

時間がないので余計なことを言っちゃいけないんですが、なお、レインボープランのことにいろいろ今泉議員からございましたが、協議会そのものも市民に協力いただいているんで何とか還元したいということで、感謝の日っていうので、ことしも道の駅でしていただきました。あとはできれば野菜等々を届けたいっていう意思があるんですね。しかし、6,000戸近い中央地区の皆さんに届けるのも難しいので、商品券とか何かいろいろ話がありましたけれども、その辺などは今後ぜひ検討すべき内容だと思っております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 補助金と委託料ということで、市長のお考えを伺いました。今後やはりレインボー協議会と今後の方向性についてもやっぱり行政と話し合っ、て、どういう方向がいいのかということで協議していただければ、さらによりよい方向に進むのではないかなと思います。行政さんの協力というのは大変大切です、長井市のまちの基本理念ということで、ぜひ継続していただきたいなど。ぜひそうしていただ

きたいと思います。

補助金ということで、今いただいているわけですので、さらに補助金の中身もいろいろ精査すれば、これは行政がやるもの、これはJAとか、そちらでやるのとか、例えば商工会議所でやるのとか、ちょっと整理すればさらに補助金の中身なんかも整理されるんでないかなんとも考えますので、事業の持ち方なんかも今後協議していただければと思います。

次の質問に参ります。中心市街地活性化の施策について質問いたします。観光交流センター、かわと道の駅建設の目的である中心市街地活性化は現在どのように進んでいるかを伺います。

観光交流センター川のみなど長井は当初の来店目標人数を大きく超え、10月には37万7,708人、11月には40万人を超えるとも予想されると報告がありました。一方、売り上げでは平均客単価をちょっと計算してみました。全体の売り上げで割ってみますと、大体520円ぐらいのようでした。家族などで来る方もいると思うので、一概に人数で割っても正確ではないと思いますが、職員も大勢いますので、売り上げも大きく期待するところです。ですが、利益を出す施設ではないと言われているそうですので、今回はこのことには触れません。

ところが問題なのは、この観光交流センターは来店してくださった方をまちなかに誘客して中心市街地活性化のための目的と、何度も市長はお話しされておりました。ところがどうでしょうか。本町のヨークベニマルが撤退してからは車も歩行者も激減し、近隣の商店も大きな影響を受けております。その後、このヨークベニマルが入居していたタウンセンタービルが倉庫として活用されるとの報道がありましたがキャンセルになり、また寂しいものになりました。

過日、市民との意見交換会で市民の方から、道の駅ではない観光交流センターで中心市街地にお客さんを呼び込むためであると言われてい



たが、でき上がったら道の駅ではないか、それに中心市街地のベニマルがなくなり、どうするのかなどとお話しされた方がおりました。市民は心配しています。ヨークベニマル跡地の利用、タウンセンター建物の利用はその後どのような進捗状況になっているかをお聞きいたします、市長。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ヨークベニマル敷地の利用についての進捗状況ということでございますが、これは今泉議員がおっしゃったように、さまざまな努力をなさってるようでございます。基本的にあそこの土地、建物は民間の会社のものでありまして、私どもとしては今のままのタウンセンターを使う場合、あの建物を使う場合ですね、もしテナントが決まったら、かなり広大な用地、面積ですので、私どももお手伝いしますと、これが我々行政の精いっぱい努力だと思っております。ヨークベニマル撤退というのは、決してここ四、五年の長井市の政策が誤っていたから撤退したのではなく、やはり10年、20年前からのずっと経緯があるわけですよ。まちづくり、例えば街路事業一つにしても、もうことし8年目ですけども、あのぐらい時間かかるんですよ、現実的には。

したがいまして、市民の皆様が嘆くのはわかるんですけども、少しずつ地道に努力してるということもご理解いただきたいと思えますし、今泉議員も観光交流センターへ行かれたことはあると思うんですが、カウンターがあるでしょう。ああいう道の駅って余りないんですよ。例えば飯豊町のめざまなんかもあるんですけども、しかし観光案内とかね、例えばまちなかの商店とつながった、あるいは飲食店とつながったクーポンなんて出してる場所なんてないですよ。あのぐらい観光パンフとかいろんなリーフレットとかチラシが置いてあって、あれ本当なくなるんですよ。それぐらい観光等々に、ある

いは観光交流に資してる。なおかつまだ単独ではございますけども、旅行会社もつくったわけですね。この意義っていうのは大きいと思えます。したがって、まだ1年も満たない状況でございますが、これからやっぱり徐々にふやしていきたいというふうに思います。

ぜひヨークベニマルの跡地については、今は民間の所有会社がいろんな取り組みをなさっているようでございますので、私どもとしてはそういった努力が報いられるような、いち早い公共施設の整備であったり、特ににぎわいを生み出すような複合施設の建設を急いでいかなきゃいけないなど。あと、空き店舗、空き家が活用できるような、やはりまちなかのにぎわいをどうつくるかということをあらゆる面から検討し、議員の皆様からいろいろご提言をいただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 確かにパンフレットがすぐ皆さん持って行ってくださって、長井市を知りたいということで、観光客の方が持っていらっしゃるというお話をお聞きしました。市内の飲食店では、あそこで出してますパンフレットの中にクーポンですね、今、市長のおっしゃったクーポン券を何人来ましたとか、そういうお話お聞きします。やはりそれなりの飲食店なんかでは効果も、大幅ではないですけど、PR効果はあるようです。やはりそれをさらに進めてほしいと思うものですから、本当にまちな真ん中、本町のあの大きな場所でのこの空き地と空きビルというのが非常に心配しているところですね。そのこともあって今、質問したところでした。

そして、同じような質問になりますけども、観光交流センターからの中心市街地活性化の進捗状況ということで、どのように今お考えになって、どのように進んでいるかということをお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

中心市街地活性化基本計画というのを平成27年度に認定をいただきました。その計画は、まずは5年計画なんですけど、庁舎の移転は入れてなかったんですけども、公共複合施設の建設については入れてございます。そちらがちょっとおくれぎみなもんですから、変更の中身を今、協議して、変更計画も出すんですけど、新たな要素として長井小学校の第一校舎、木造校舎が出ましたので、観光交流センターは車でいらっしゃる方がほとんどですので、まちなかにどういうふうに誘導するかというのが大きな課題で、先ほど議員からありましたクーポンとか、まちなかの商店街などと組んだ、あるいはまちなかに食事に行っていたくような団体のお客様の誘導なども行っております。まだまだ不十分でございまして、これは少し長い目でご指導いただければというふうに思うんですけど、やはりまずは5年ぐらいかけて徐々にふやしてまいりたいと。

ちょっと私のほうからもしお許しいただければ、商工観光課長のほうに具体的な数字、例えば観光局で扱って、独自に観光局を通してまちなかに入っていた数とか、あとクーポンを利用された数とか、そういったものを把握してございますので、答弁いたさせたいと思っておりますが、よろしかったらですが、いかがいたしましょうか。

よろしいですか、はい。

じゃあ、商工観光課長から簡潔に申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 中田浩之商工観光課長。

○**中田浩之商工観光課長** ただいま市長のほうからございました観光局の初年度、11月末までの暫定の数値でございまして、まちなかへ観光客のお客様を誘客する事業、14事業を展開してございます。その中での主なものについて申し上

げたいと存じます。

まず、旅行商品の販売ということで、2,579名、こちらはまちなか歩きや市内観光施設、それから食事、買い物、フラワー長井線などをご利用いただく旅行商品でございます。

続きまして、補正予算、さきの議会でお認めいただきましたけれども、バス補助の部分でございまして、大型バス89台で3,208名のお客様の誘客がなされております。こちら両地域観光動向の推計値によりますと、この両誘客事業で約7,000万円ほどのまちなかへの経済波及効果があるのではないかとというふうに観光局のほうでは分析をしているところでございます。

続きまして、まちなかへやはり同じく誘導する麺本、菓子本の事業では2,000冊の配布、販売をいたしまして誘導をしているところでございます。それから、先ほど市長からございましたクーポン事業では525件、まる得クーポンでは650枚の実績となっております。それから、二次交通分野で申し上げますと、レンタサイクル利用者はこれまで220台、土日祝日運行の観光循環バス利用者は2,159人、このように少しずつではございますが、確実に実績のほうは上がっているものと分析しているところでございます。

私からは以上です。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 課長には細かく数字を教えてくださいまして、ありがとうございます。さらに頑張っていたきたいと思っております。

それでは、この項目の最後になります。現在、市庁舎建設のための選定が検討委員会で長井駅周辺がよいとの意見でまとまったとの報道がありました。しかし、中心市街地への活性化のために、この本町の広大な空き地を、ヨークベニマルの跡地をお考えになってはどうでしょうか。人の集まるには商店が必ずできて活性化します、市民の利便性も抜群です、観光交流セ

ンターの目的も達成できますと、これは私がきょう考えてきた原稿ですが、私の中心市街地活性化の考え方の一つを今申し上げました。

午前中に市長の答弁もあり、このことの答弁は求めませんが、一向に進まない本町のまちづくり、特に広大なヨークベニマル跡地利用に見通しが立たず、大変残念に思っております。市民生活にも大きく影響してますし、中心市街地が活性化してほしいと強く願っての質問でした。しかし、この中心市街地活性化は市に責任があると思いますが、いかがでしょうか。今、市長から5年ぐらいの計画でということでご答弁いただきましたが、最後に市長に市としての中心市街地活性化の責任ということでお考えをいただいて、この項目を終わりたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

先ほど5年という話をしたのは、観光交流センターからまちなかへの誘導客をふやすということについては5年ぐらいのスパんでぜひ見ていただきたいということでございます。

あと、中心市街地活性化は市長の責任だということでございますが、これは中心市街地の活性化の主役は民間であります。ですから、中心市街地活性化協議会は商工会議所さんで行っていただいているわけですね。したがって、私、責任ないとは言いませんけれども、それは市長が悪いというふうに議員はおっしゃりたいのかもしれませんが、確かに責任はありますが、先ほど言いましたように、現在の中心市街地が厳しい状況になってるのは、5商店街が県内一空き店舗率が高いというのは、もう平成15年ぐらいから言われておまして、空き店舗から空き地になってるんですね。これは歴代の市長や議会や、あるいは商店街の皆さん全員の責任じゃないでしょうか。

ただし、私のほうは中心市街地活性化基本計画を国から認めていただいて、そしてさまざま

な事業を計画しておまして、これをもし議会からもお認めいただいてやって、それで成功しなかったら、これは私の責任は大きいということだと思しますので、そのところは議員にもご理解いただきたい。私が事業をするわけじゃないんですよ。したがって、少なくとも中活計画を立てたことによって民間の投資は非常にしやすくなりましたし、補助を受けられるわけですね、俺たちの株式会社楽街が3分の2の経済産業省の支援を受けて今やってるじゃないですか。こういったことがこれからどんどん起きてくるような、やっぱりそういう側面からの支援をやっていきたいと、そのための公共施設整備であると、まちなかはそのように考えております。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 市長ということではなくて、市としてどうかと。市長から今、歴代の市長さんがやはり何もしてこなかったということも、市長がおっしゃったように、それも大きな原因の一つかなと、手当てしてこなかったということも大きなことかなと、それは私もそのように感じます。ですから、市長の責任というよりも、市としてどうなのだと。市として、行政として、中心市街地活性化させるには、商工会議所、それから民間と、もちろんそういう一緒になってすべきことでありますけれども、行政として、市としてどうなのだとおっしゃるところでございます。

時間もありませんから、最後の質問に参りません。住宅リフォーム補助金事業を商店等にも拡大してはどうかという最後の質問です。

私はこの商店等にリフォーム、リニューアル補助金ということで、2回ほど質問しているかと思っております。現在、住宅リフォーム補助金事業がご承知のように大変好評で、利用者や建築業者など、大きな経済効果が出ております。そして長井市と県と併用して利用できるように建て

主というか、行う方は大変大きなメリットが出ております。このたび地域商業活力向上事業として起業、それから創業支援事業補助金として空き店舗等での創業を希望するものに対して改装費や賃貸料の一部を支援する事業で、創業見込みを上回るとして補正予算が計上されました。起業なさる方にとっては大変助かり、すばらしいことだと思います。

しかし、既存の営業店に対しての改装などの手だては現在ないんです。皆さん、その商店とか製造業の皆さん、そういう方々から、長井市でもこういうような補助金制度を考えてほしいと、いつもお会いするたびに言われております。全国では既存の商店や旅館、飲食店などへのリフォーム助成補助金が広がっております。全国商工新聞9月11日号で、秋田県が25自治体中16自治体、64%にこのリフォーム補助金事業が広がっていることが紹介されておりました。秋田市や能代市では、中心市街地での改装費40%、100万円や、宣伝広告費は40%、20万円、賃貸料50%で150万円、いずれもこれは秋田市の例ですが、行っております。横手市や大館市、男鹿市など11の市で行っており、小坂町など町なんかでも5町で行っております。

私は商店などの既存のお店の改装など補助金の創設を先ほども申し上げましたが、2回ほど要望しております。創設ということではハードルが高いのでしょうか。そうであれば現在の住宅リフォーム補助金を商店にまで拡大していただきたいと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

こちらの質問につきましては6月議会でもご提言いただき、回答しておりますが、通常の修繕の補助ということについては、ちょっと私どもも資料、勉強不足なのかもしれませんが、秋田などで行っているのはそういったものではな

いと。

例えば秋田中心市街地商業集積促進事業ということで、改装費が100万円、5分の2以内、宣伝広告費20万円、5分の2以内、賃貸料等が2分の1で限度額が最高で2年間で150万円ということなどあります。あとは能代街なか商店街のイメージアップ補助金、この中身を詳しく見ますと、通常の古くなったから新しくしたいっていうのは補助対象にならないんですね。これはそういうところがあるということであれば、ぜひ後でお教えいただきたいんですが、例えば秋田市の場合では、秋田中心市街地内の空き店舗、空き事務所、空きテナントで新たに店舗とか何かしたいっていったときのリフォームのための補助金なんです。ですから、今商売なさって、古くなったからちょっと中身を変えたっていうことについては補助は、秋田市は出してないです。

あと、能代市街なか商店街のほうを見ますと、木の都能代のPRを図るため、木工調度品の購入費用の一部を助成するんだということで、外壁の木質化とか、木製看板の設置などについては2分の1で上限50万円等々、いろいろあるんですね。あと、店舗等での木工調度品の購入、これは空き店舗に限らず、木のものを使った場合は支援しますよと。

これ2つのところの実例だけですので、今泉議員おっしゃるように、単なる通常の修繕で補助金を出してるところもあるかもしれません。ただ、私どもでは調べたところ、みんな条件つきで、いわゆる住宅のリフォームみたいなものは、商売で使ってる、これはあれですよ、要は税の控除になるものですよね、商売ですから。そういったものについては補助出してないというのが、私は基本だというふうに見たところです。ただし、それでもやりますよっていう市町村があるとなれば、ぜひお教えいただきたいですし、それについて我々が適正かどうか、ぜひ

考えたいと思います。

なお、私どもでは企業立地基金というのをつくって、市内の、外から来る企業もいいんですが、市内の製造業さんで新たな設備投資をした場合は、1,000万円以上という限度ですが、やっぱり1,000万円以上というのは結構あるんですよ。新しいラインつくると何千万円だと通常あるわけで、それを固定資産税分を3年分、現金でお支払いしているということなどの支援も行っているところでございます。ぜひ中心市街地の活性化の取り組みとしても検討したいので、もしそういうことがありましたら、我々の調査、認識不足もあるかもしれませんので、ぜひご指導いただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 8番、今泉春江議員。

○**8番 今泉春江議員** 市長、ありがとうございます。ぜひこういうことで進めていただきたいなと思います。今まで私が2回ほど質問したのは、商店とか旅館とか飲食店とか、そういうところでリニューアル補助金と、看板を直したり、トイレを直したりとか、厨房を直したりと、そういうことで今まで2回質問したところでした。なかなか取り上げていただけなかったものから、住宅リフォーム補助を広げてはどうかと、今回はそういうようなことで質問いたしました。ですから、東京なんかの例や、あと前橋とか長岡の例なんかもお出しして質問したところでした。

なお、今回商工会議所からも要望書も来て、中で、小口のそういう補助金の創設もお願いしたいというような項目もありますので、ぜひ見ていただいて、個人の商店とか、旅館とか、飲食店とか、ぜひ活性化のために補助金制度というものも検討していただければと思います。よろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。

散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。

再開は11日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 3時01分 散会